

## 地域の指導者との連携で教員の指導力を高めた実践例

学 校 名 東大阪市立柏田中学校（大阪府）  
電 話 番 号 06（6727）3010  
全 校 生 徒 数 283 名（男子 157 名 女子 126 名）  
種 目 等 ダンス（創作ダンス） 第 2 学年

### 1 取組のねらい

ダンスについての基礎的技能と、体を動かす楽しさを生徒に身に付けさせる。

- （1）身体的、精神的な健康を意識しながら、ダンスの基本技能を習得する。
- （2）中間発表や成果報告会など、生徒に発表の機会を多く与えることで、ダンスを創る喜び、体全体で仲間とともに表現することの喜びを体感させる。

### 2 体育科教員の指導力向上に向けた取組

- （1）地域の指導者との綿密な打合せによる、教員の指導技術の向上

- ①授業の事前協議を入念に行い、指導内容を絞りスリム化し、反復練習を重視した内容で授業にのぞんだ。
- ②授業後の反省ミーティングでは、安全面や指導の声掛けについて、地域の指導者と教員が何度も協議し、次時につなげた。

- （2）研究成果の積極的な発信

公開授業を含めた市の教職員研修を本校が担当し、研究成果について市内の体育科教員と共有した。

### 3 地域の指導者活用による学校と地域の連携の強化

府内のダンス教室に、地域の指導者として協力していただき、学校と地域の結びつきを一層強いものとした。

## ○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 体育科教員と地域の指導者による T T 授業において、授業の開始と終了時の安全チェックを徹底した。
- 2 ダンスの中で組立体操を取り入れる場面では、補助の生徒の近くに必ず教員を配置し、事故の未然防止に努めた。

## ○成果と課題

- 1 成果としては、ダンス技術の習得や体力の向上と併せて、ダンスをとおして仲間を思いやる気持ちが育ち、学校生活が落ち着いて送れる生徒が多くなった。
- 2 課題としては、専用のダンス場がないため、大きな鏡で自分のステップを確認できる人数に制限があった。施設面での充実が期待される。

## ○研究内容

### 【体を動かす楽しさを知る】

地域の指導者と一緒にステップを踏みながら体ほぐし運動をすることで、精神面での落ち着きが見られた。



### 【仲間とともにダンスを創る楽しさを味わう】

小グループに分かれて振り付けを考えたり、意見交換をしたりする場面を多く設定した。



### 【ダンス発表の場を多くつくる】

校区の文化祭などにも出場し、地域交流にも寄与した。

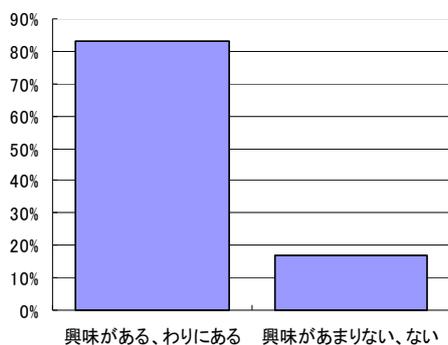


### 【体育の学習を生かして体育祭での発表】

参観された保護者や地域の方から大きな歓声があがった。



ダンスの授業に興味がありますか



### 【ダンスの授業開始前のアンケート結果より】

授業開始前からダンスの授業に対して興味をもっている生徒は多かった。しかし、一部では苦手意識や、難しいと感じている生徒もいた。

授業後のアンケートでは、発表当日のできればだけでなく、練習過程を振りかえる感想も多かった。

体育科教員からは、今後も地域の社会体育と連携していきたい、との要望があった。

### 【授業後の生徒アンケートより一部抜粋】

・体育祭のダンスの発表では、練習の途中で友達と意見がぶつかったことも何度あったけど、それを乗り越えて、本番ではいい演技ができたと思う。友達の良い面も発見できた。

2年間の研究成果により、体育教員の指導力については一定の向上が見られた。次年度は地域の指導者に頼ることなく授業実施していく予定であるが、地域人材は学校の教育資産として、今後も社会体育と連携し活用していきたいと考えている。

## 地域の指導者との連携で技術指導を充実させた実践例

学 校 名 浜松市立入野中学校（静岡県）

電 話 番 号 053 (447) 1104

全 校 生 徒 数 731 名（男子 390 名 女子 341 名）

種 目 等 ダンス（現代的なリズムのダンス） 第3学年

### 1 取組のねらい

ダンス必修科にともない、地域の指導者・関係団体等との連携・協力を通じて、学校における専門的なダンスの技術指導の充実を図ることを目的とする。

- (1) 地域の指導者と連携指導を行い、望ましいダンス指導の在り方を研修する。
- (2) 生徒一人一人に対し、より専門的な技術指導を行うことを目標とする。
- (3) 習得したダンスの技能を生かして、充実した授業展開を行うことを目標とする。

### 2 取組の概要

以下のように、連携を強化するために具体的に取組んだ。

- (1) 地域の指導者と体育科教員との連携・計画立案・教材準備等について

①授業を実施するに当たり、事前に授業の単元構想等について地域の指導者と具体的に打ち合わせを行うことで共通理解を深め、授業展開に向けて準備をした。

②生徒が、地域の指導者による技術指導を受ける前に、他校での実践の様子を映像で見ることで、授業展開のイメージを持たせた。

- (2) 地域の指導者による具体的な指導内容について

①ダンスの動きに必要な準備運動（ストレッチ・身体の可動範囲を広げる体操・ウォーミングアップ等）の指導

②ヒップホップのリズムのとらえ方及び基本技術の指導

（8ビート、16ビート等のリズム感や特徴のとらえ方・体の動かし方やステップ指導等）

## ○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 毎時間、本格的なダンス学習に入る前に、入念に準備運動を行い、ダンスに必要な部位の可動範囲を広げた。
- 2 生徒が精一杯活動できるように、活動場所の環境（広さ・照度・温度等）管理を確実に行った。

## ○成果と課題

地域の指導者からヒップホップのリズムに乗った基本的な動きの指導や専門的なダンスの技術指導を丁寧を受けられたことは、経験のない生徒にとって大変有意義な授業となった。また、経験がある生徒にとっても、個別に専門的な指導を受けられ、さらに意欲を高めることができた。体育科教員にとっても、今後のダンス指導に生かせる内容であった。課題としては、専門的なダンスの技術指導を毎年継続していくための体制の整備が必要である。

## ○研究内容

### 【地域の指導者による基本技術指導】

ヒップホップの基本技術の指導を受ける生徒



### 【グループミーティング】

テーマ曲を決め、動きづくりを考えている生徒



### 【創作活動】

リーダーを中心にダンスを創る生徒



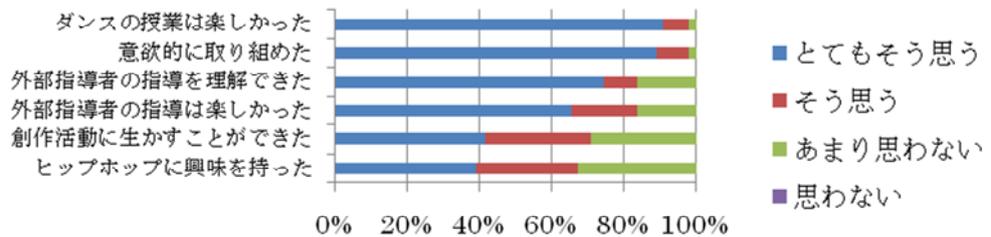
### 【発表会の準備】

発表会に向けて工夫点をカードに記入する生徒



### 【ダンスの授業に対する生徒へのアンケート結果】

実施学年\*3年女子110名のアンケートをとりまとめた結果を掲載



### 【成果と分析内容】

生徒アンケート結果より

アンケート結果より、多くの生徒がダンスの授業に満足感を得られたことが分かる。また、専門的な技術指導を受けたいという意欲も感じられた。反面、グループ別にダンスを創る際には、指導を受けたヒップホップの技術や動きを取り入れていけない面も見られ、課題となった。

### 【感想及び今後の課題】

実践校の体育科教員より

今回、延べ20時間の授業を地域の指導者と連携して行うことができた。ヒップホップの技術は難しく、専門家が自ら見せることで、生徒の意欲も高まり、技術も身に付けることができた。今後は、質の高い指導をどのようにして継続させていくのが課題となる。

## 2. 実践事例

地域スポーツ人材を活用した運動部活動等推進事業

## 初心者（女子）の意欲を高める柔道の 実践例

学 校 名 我孫子市立久寺家中学校（千葉県）  
電 話 番 号 04(7184)3987  
全 校 生 徒 数 473名(男子244名 女子229名)  
種 目 等 武道（柔道） 第2学年

### 1 取組のねらい

体育の武道（柔道：女子）の授業において、外部指導者を活用することで、生徒一人一人の意欲を高め技能を向上させる。

### 2 取組の概要

#### （1）外部指導者との連携

##### ①新学習指導要領の説明

外部指導者等に対し、指導主事が新学習指導要領の内容や安全に関する留意事項を説明し、学習内容等の理解を求めた。

##### ②基本方針の確認

ア 授業を通して伝統的な行動の仕方、安全へ配慮をする態度を身に付ける。

イ 基礎的な技能を習得することを中心に学習を進める。

##### ③指導場面の確認（役割の分担）

授業担当教員がT1として全体の授業を進めること、外部指導者はT2として専門的技能の指導をすることとした。

##### ④次時の指導内容の確認

授業後に外部指導者と本時の反省・評価を行い、次時の指導内容を確認した。

#### （2）学習意欲を高める指導方法の工夫

①簡単な固め技の試合を通して、抑えたり返したりする攻防のまとめをした。

②5人1組を作り、リーグ戦方式で簡単な固め技の試合を行った。

③グループ内で課題を見付けたり、練習方法を考えたりする場面を設定した。

#### （3）実践結果の発表

実践内容・成果・課題等を次年度の市内保健体育科教科主任研修会で発表した。

### 3 実施上で工夫したこと

外部指導者の示範により、技をかけられた際の受け身を実際に見ることで、受け身で身を守ることの重要性の理解を促した。

## ○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 生徒自らが、運動の場の安全確認を十分行うことを第一に指導を行った。特に畳のずれは、その危険性を認識させ、気付いたらすぐに直すように注意を促した。
- 2 受け身のテストを早めに実施することによって、受け身を確実に身に付けさせるようにした。ケガの防止のための受け身の重要性を強調し説明した。

## ○成果と課題

- 1 柔道の有段者である外部指導者がT2として学習支援にあたることは、基礎的技能や生徒の関心・意欲の向上に大変有効であった。
- 2 指導をしながら外部指導者と打ち合わせをすることもあったため、外部指導者との事前の打ち合わせ時間を十分に確保することが課題である。

## ○研究内容

【固め技（抑え技）の学習】  
初めて学習した「横四方固め」



【返し方・逃げ方のポイントの指導】  
仰向けで畳を蹴って「えび」の形になるのは難しい。



【簡単な試合の様子①】  
膝立ち姿勢で相手をさばき  
抑え込みの機会をねらう。

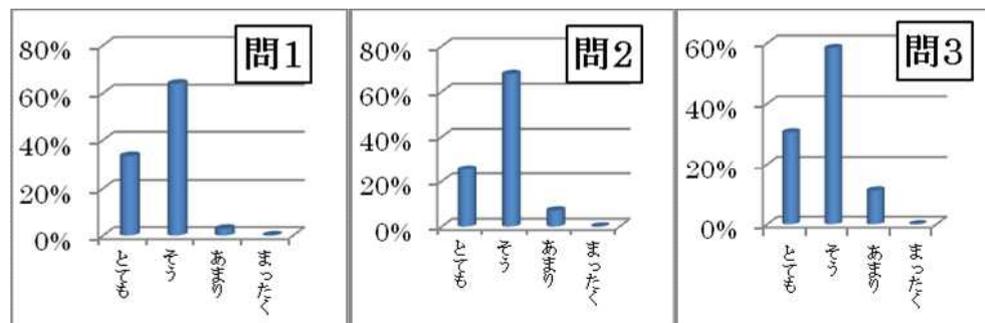


【簡単な試合の様子②】  
必死の攻防戦！5秒抑えたら勝ち。



【単元終了後の感想：外部指導者の方に授業を教えてもらって】

問1 楽しく授業に参加できたか。 問2 上達のこつが理解できたか。 問3 柔道への関心が高まったか。



【礼 法】

慣れない正座で伝統的な行動の仕方に触れる。



【生徒の感想】

- ・とてもわかりやすく楽しい授業だった。
- ・刺激的に楽しく学べた。

